

<第4回日本レジャー・レクリエーション学会学会賞 研究奨励賞「論文部門」>

温泉地への旅行の決定要因に関するアンケートの開発

西田 集¹ 上岡洋晴² 下嶋 聖²

Development of a questionnaire to identify determinants for a trip to hot spring

Shu Nishida¹, Hiroharu Kamioka² and Hijiri Shimojima²

1. 研究の背景と目的

旅行者が旅先の選択時に使用するツールとしてインターネット上の旅行予約サイトがある。しかし、現存する旅館や観光地の情報は、指標にバラつきがあり、コンセンサスの得られた指標ではないため、利用者に対して魅力や特性を正確に伝える情報として十分とはいえない。また、温泉旅行者の温泉地の決定要因に関する研究がいくつかあるが、先行研究のそれぞれのアンケート項目は筆者の予測に基づいており、利用者のニーズを反映させるための科学的な手続きを踏んでいない。そこで、温泉旅行者が温泉地に求めている事項を正確に示すために、高い精度と汎用性のある設問を設定したアンケート開発を目的とし、自由回答式での質問項目の抽出調査や統計分析等の科学的手順を踏んで、一般の者を対象とした温泉地における需要調査を行い、質問用紙を作成した。

2. 研究方法【アンケート開発のための4つのステージ】

① 網羅的なキーワードの収集【1回目調査】

温泉地に求める新たな要因を抽出するために20～70歳代の男女から温泉に求めることを自由に列挙してもらった。

② キーワードの選定

得られたキーワードの中で類似している用語の統合・再編や、意味が理解できない用語を除外するなどの作業を行った。

③ アンケート項目の絞込み【2回目調査】

同年代・性別の別な集団に対し、②で統合・再編したアイテムを0～10点で評価するアンケート調査を行い各項目の重要度を明らかにした。

④ アンケート内容の吟味

③に基づいて統計分析（各項目の相関係数、性差に関する対応のないt検定、因子分析）を行い、アンケートを完成させた。

3. 結果

①・② 1回目調査 (n=56)

先行研究19項目とは別に、新たに57項目を抽出した。内訳は「宿泊施設関連」が36項目「観光関連」が11項目「周辺施設関連」が4項目、その他7項目であった。

③・④ 2回目調査 (n=81)

57項目で調査を行い、統計分析から4つの共通因子も抽出できた。この結果から、平均点と性差の生じた項目、共通因子の第1因子を踏まえて20項目を抽出し、アンケートを完成させた(表1)。

4. 考察

作成した質問用紙には先行研究において顕在的・潜在的に不足している項目の抽出と、評価得点(ニーズ)の高い項目を特定することに留まらず、性差や共通因子をも含めて、作り上げた点に、本研究の独自性があると考えている。回答者の選択バイアスが生じている可能性がある点、クロンバックの信頼性係数を算出していない点、同一集団に

1 ジャパン建材株式会社 Japan Kenzai Co., Ltd.

2 東京農業大学地域環境科学部 Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture

表 1 完成版アンケート項目

項目	項目
部屋の快適度	ロケーション (部屋、風呂)
街の情緒	宿泊料金
24 h 風呂	景観整備
宿の清潔度	浴室の広さ
周辺観光地の有無	街の設備 (公衆トイレ・ベンチ)
露天風呂	宿の食事
接客態度	自然
宿の付属設備の充実度 (洋式トイレ、部屋風呂完備等)	源泉かけ流し
癒し	交通の便
温泉の効能	旅館雰囲気

表 2 本研究で開発されたアンケート手法の妥当性・実用性の評価

基準項目	従来までの課題点	本研究で開発したアンケート		
		手法	改善点	妥当性
内容妥当性	事例研究が多く、属性が限局的	自由回答式質問	20歳代から70歳代までの属性をカバーし、様々なニーズを捉えた	有
構成概念妥当性	注目する項目が顕在的・潜在的に不足	因子分析による共通因子の探索	自由回答式質問で得られた項目を統計的に統合	有
基準関連妥当性	経験則的に決定要因が抽出されていた	各種の統計解析の結果より20項目の決定要因を抽出	統計学的に抽出された決定要因を用いることによる経験則を排し現実性・実態性を担保した	有
実用性	アンケート票のボリュームは研究者の目的・意向で異なる	汎用性・フィールド調査での実用性を考慮し、アンケート票のデザイン設計を当初から設定	・A4サイズ1枚、質問項目20以内 ・設問はキーワードもしくは単文	有 実際に作成されたアンケート票を試験的に検証し、2分程度で回答ができた

再度調査を行っていない点、潜在的な変数が存在している可能性がある点といくつかの課題と限界を含んでいるが、アンケート作成にあたり、表2の様に内的妥当性・構成概念妥当性・基準関連妥当性もあり、実用性も立証している。

5. まとめ

国民が温泉地を旅行する上で、その決定要因に

関する20項目からなるアンケートを提案することができた。再現性と内的妥当性の検証が十分とはいえないが、妥当性・実用性はかなり高く、国内においては、普遍的に使用しうる項目設定を行うことができた。しかし、今後は、社会・経済情勢の変化によっても、さらに改訂する必要があると考えられる。